西尾市遺跡解説パンフレット

古代・中世の西尾

西尾市教育委員会

古代（飛鳥・奈良・平安時代）

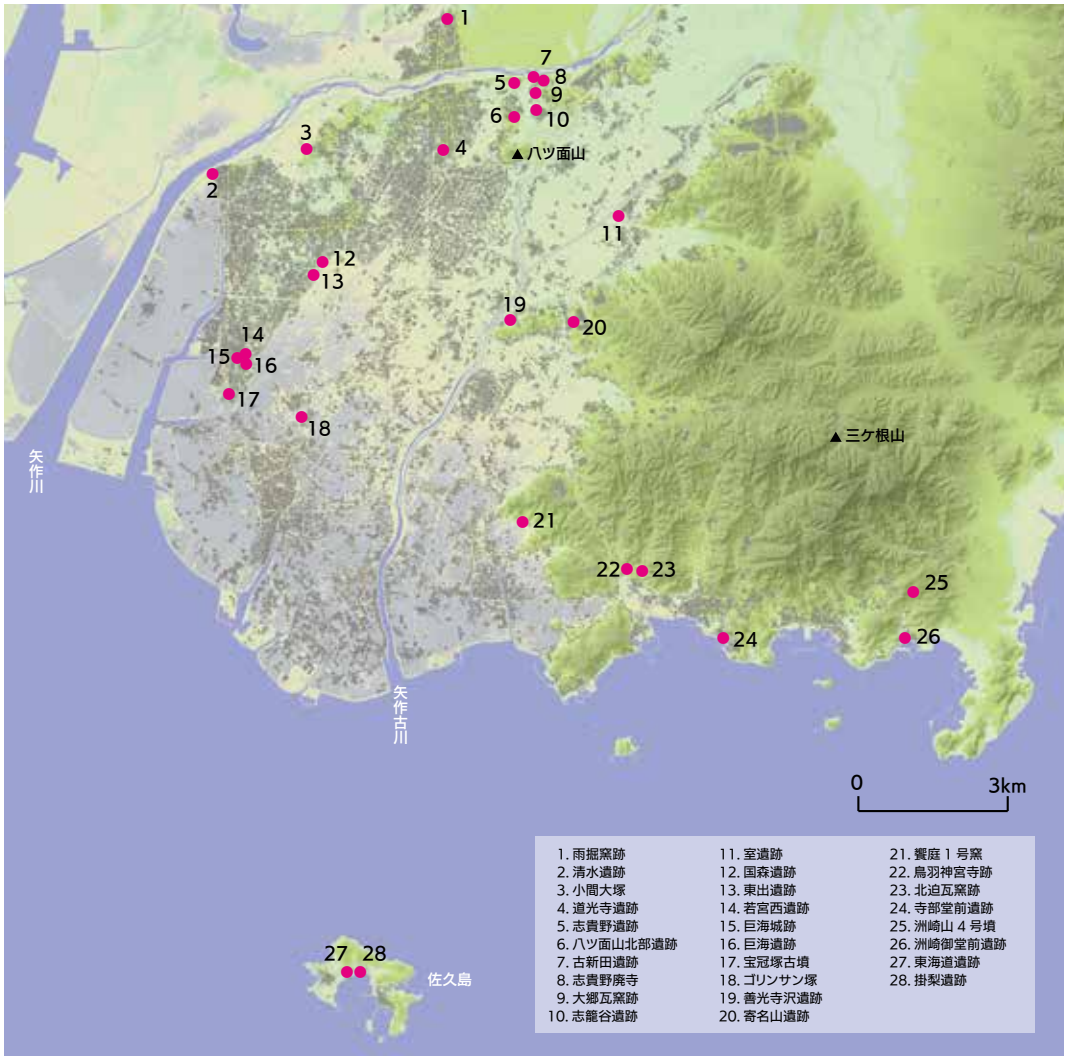
大化の改新以降、天皇を中心とした中央集権的な律令国家体制が整えられていきます。律令制下では、西尾市域の大部分は三河国幡豆郡、北部の一部は碧海郡に属していました。平安時代に編集された百科事典『和名類聚抄』によると幡豆郡内には、「熊東（熊来）・谷田・意太・磯泊・大川・大浜・析島（佐久島）・修家」の8つの郷が記されています。このうち、熊来（くまく）郷は八ツ面（やつおもて）山周辺に、谷田（やた）郷は上・下矢田町周辺に所在したと推定されていますが、場所が判明していない郷もあります。

古代の集落はカマドをもつ竪穴建物で構成されていますが、9世紀後半になると掘立柱建物へと移り変わります。日常生活品で用いられた焼き物は土師器と須恵器が主体ですが、9世紀になると釉薬のかかった灰釉陶器が流通するようになります。

中世（鎌倉・南北朝・室町時代）

平安時代後期になると、幡豆郡内には吉良荘（きらのしょう）・志貴荘（しきのしょう）・蘇美御厨（すみのみくりや）・饗庭御厨（あいばのみくりや）などの荘園が成立します。西尾市域の大部分にあたる吉良荘は、承久の乱（1221年）後に吉良氏が地頭職となり、西条城・東条城を拠点に約300年間支配します。

中世の集落は溝で区画された複数の屋敷地で構成されていました。屋敷地内には掘立柱建物や倉庫と推定される竪穴状遺構、井戸などが設けられます。鎌倉時代以降には、土師器の鍋・皿類に加え、山茶碗や常滑や瀬戸産などの陶器が加わります。また、中国から輸入された白磁や青磁の陶器が出土することもあります。



後田（うしろだ）遺跡出土の海獣葡萄鏡（かいじゅうぶどうきょう）（表紙中央）

明治21年（1883）6月、西幡豆町で土を掘り起こす作業中に8世紀代の銅鏡が7面出土しました。本資料はそのうちの1枚です。他の6面のうち5面は警察署に届けられた後に、帝国博物館（現在の東京国立博物館）で保管され、現在は宮内庁書陵部の所蔵となっています。残りの1面は個人蔵となっています。

本資料は直径13cm、縁高1.3cm、重量732gで、奈良時代に唐から輸入された鏡を原型として型取りする踏み返し技法で鋳造されたと考えられます。

表紙　遺物写真（上左より）：海獣葡萄鏡（後田遺跡）、灰釉陶器（寄名山遺跡）、中国産青磁（善光寺沢南遺跡）、古代瓦（鳥羽神宮寺廃寺・寺部堂前遺跡）
背景写真（上左より）：八ツ面山北部遺跡、寄名山遺跡、室遺跡
志貴野遺跡・室遺跡写真提供：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

碧海台地東縁の村々

国森町から刈宿町にかけての碧海台地縁辺には、古代～中世の遺跡が点在しています。

矢田地区の国森遺跡や東出遺跡では発掘調査によって古代の集落跡が見つかっていて、「矢田里（谷田郷）」の存在を裏付ける貴重な成果となっています。また、寺津地区には中世吉良氏に関連した城や寺院が多くあります。

東出遺跡（上矢田町）

碧海台地東縁に広がる古代・中世の集落跡です。これまでに3度の発掘調査が行われ、古代の竪穴建物跡3棟、中世の屋敷地が確認されています。また中世の平瓦や燭台といった寺院に関連した遺物も見つかっています。

国森遺跡（国森町）

矢田ふれあいセンター建設に伴う発掘調査では、古代の建物跡9棟が見つかりました。出土した土師器や須恵器から8世紀前半を中心とした集落跡と推定されます。

竪穴建物検出状況（国森遺跡）

東出遺跡第1次調査区全景

東出遺跡第3次調査の様子

古代の竪穴建物跡（東出遺跡）

参河国波豆郡矢田里白髪部

藤原宮跡出土荷札木簡
矢田里の住民「白髪部」が藤原京（奈良県）へ調を献納した際に付けられた荷札。
写真提供：奈良文化財研究所

若宮西遺跡・巨海城跡・巨海遺跡（巨海町）

巨海町には吉良家家臣の巨海氏の居城であった巨海城や、西条城主足利長氏夫人が開基とされる長寿尼寺跡があり、中世西条吉良氏と関わりの深い地域です。

若宮西遺跡は寺津小・中学校の校庭を中心に広がる古墳時代～戦国時代にかけての集落遺跡です。平成２年に行われた寺津小学校体育館建設に伴う発掘調査では、古墳時代の竪穴建物とともに、溝で区画された中世の屋敷地が見つかっています（右写真）。また、隣接する巨海城跡・巨海遺跡でも中世の遺構が確認されているため、この一帯に中世のムラが展開していたと考えられます。

若宮西遺跡
溝で区画された2つの屋敷地内から掘立柱建物・倉庫・埋葬土坑などが見つかりました。出土遺物から13世紀代の屋敷地と推定されています。

巨海城跡
鎌倉～室町時代の溝などが見つかり、長寿尼寺跡に関連した遺構の可能性があります。

熊来郷から志貴荘

八ツ面山の北側には、古代～中世にかけての遺跡が広範囲に確認されています。このことからこの一帯が古代の「熊来郷」、平安時代末に成立する「志貴荘」に属する村落であったと推定されています。

溝で囲まれた屋敷地　（八ツ面山北部遺跡）
9世紀後半ごろの有力者の屋敷地と考えられます。

八ツ面山北部遺跡（八ツ面町/中原町）・志貴野遺跡（志貴野町）古新田遺跡（志貴野町）・志籠谷遺跡（志籠谷町）

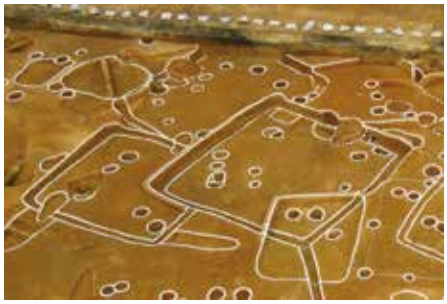
八ツ面山の北側台地上に広がる古代～中世の集落遺跡を、八ツ面山北部遺跡群と総称しています。

古代の集落は7世紀初めに出現し、約200基の竪穴建物跡が確認されています。集落は北辺にカマドを設けた竪穴建物跡で構成されますが、9世紀になると掘立柱建物が主体となります。建物跡の多くは一辺約5mですが、志貴野遺跡内の集落北西隅の最も高い地点で、庇を有する大型の掘立柱建物跡が見つかりました。柱穴も深く・大きいため特殊な建物として注目されます。また、八ツ面山北部遺跡では溝で区画された内部に方位が揃った規格性の高い建物群が現れ、周辺からは官衙や寺院から見つかることの多い緑釉陶器や円面硯、墨書土器が出土していることから有力者の住まいと想定されます。古代の集落は各遺跡内での盛衰はあるものの10世紀中葉に一旦終焉を迎えます。

11世紀末になると、掘立柱建物が出現しはじめ、13世紀中葉にはいくつもの屋敷地からなる中世の集落（=志貴荘）へと移り変わる様子が明らかとなりました。屋敷地は20～30mの長方形または正方形で、掘立柱建物・井戸・柵列などが確認されています。

出土遺物（八ツ面山北部遺跡）

古代の遺構群（志貴野遺跡）
右奥が大型柱穴の建物跡。遺跡内からは緑釉陶器や墨書土器が見つかっています。



古代の竪穴建物跡（古新田遺跡）
7世紀代を中心とした古代集落です。

古代の竪穴建物跡（志籠谷遺跡）
8世紀ごろの竪穴建物（右端）が見つかっています。

中世の屋敷地（八ツ面山北部遺跡）
遺跡内に計16区画の屋敷地が確認されています。

古代の大規模工事の跡　室遺跡（室町・駒場町）

蘇美御厨※1の入口に近い広田川と須美川に挟まれた沖積低地に立地する古代～中世にかけての遺跡です。発掘調査では奈良～平安時代にクスノキやヒノキの幹をくり貫いて造った導水管である大型木樋3基が見つかり、沖積低地の水田開発の様子を知る重要な手掛かりになっています。中世には、5～6区画の屋敷地が広がっており、吉良道や平坂街道が交差する立地と、豊富な土器・陶器が出土したことから、物流の拠点となるムラであった可能性が考えられます

※1　現在の幸田町須美付近にあった伊勢神宮の荘園。

木樋の出土状況　河川から水路に水を取り込むために堤防の下に設置されていました。

中世の屋敷地　当時の建物の柱穴などがみつかっています。

祭祀的なムラ　寄名山遺跡（吉良町瀬戸）

岡山丘陵と鎧が淵を挟んだ東側の丘陵に立地する平安時代前半（9世紀前半～10世紀後半）を中心とした集落遺跡です。南向きの斜面地に平坦な面を築いて建てられた平安時代の建物跡10基などが確認されています。

墨書土器・緑釉陶器・男根形陶製品・モモの炭化核・托形土器など一般的な集落では見られない祭祀に関わる遺物が多く見つかっています。

堆積層検出状況
斜面に堆積した土層から平安時代の遺物が大量に出土しました。

緑釉陶器
猿投窯産の高級陶器。市内では最も多く見つかっています。

男根形陶製品
灰釉陶器製。残存長は7.4cmで、丁寧につくられています。

こんなところにも遺跡が!?
道光寺遺跡（道光寺町）

名古屋鉄道西尾口駅の北へ400m、市街地に位置する弥生・古代・中世の集落遺跡です。7世紀末～8世紀初頭の竪穴建物跡18基、中世の掘立柱建物跡7基、井戸2基などが見つかっています。

室町時代の井戸の調査

墨書土器

墨で文字を記した土器が稀に見つかることがあります。一文字のものが多く、祭祀に使用されたとされていますが、具体的な使用方法は不明です。墨書土器は古代の文字文化を知る重要な手がかりです。古代の人々の筆遣いにもご注目ください。

「太」岡島遺跡

「古」八ツ面山北部遺跡

「金□」室遺跡

「丸」寄名山遺跡

「黄」寄名山遺跡

「十」寄名山遺跡

古代の寺院

7世紀後半の律令国家形成期に仏教文化は地方へも波及し、各地の豪族たちは古墳に代わる権威の象徴として盛んに寺院の造営を行いました。志貴野町地内や鳥羽神明社境内などから多くの古代瓦が見つかっていることから、寺院の存在が推定されています。

志貴野廃寺（志貴野町）・大郷窯跡（小島町）

7世紀末～8世紀初頭に創建されたと推定される古代寺院です。志貴野町集落の南側を中心に古代瓦が多く採集され、礎石建物の根石と伝わる石が確認されています。遺跡から南へ約200mの西尾市総合体育館北斜面に大郷窯跡があり、志貴野廃寺や寺領廃寺（安城市）へ瓦を供給していたと考えられています。

また、北接する古新田遺跡では8世紀の古代瓦や瓦塔が出土しています。寺院に関連する建物は見つかっていませんが、境内地の一部であった可能性があります。

素弁八弁蓮華文軒丸瓦（志貴野廃寺）

素弁九弁蓮華文軒丸瓦（大郷窯跡）

鳥羽神宮寺跡・北迫瓦窯跡（鳥羽町）

鳥羽神明社の南側斜面を中心に多くの古代瓦が見つかっており、7世紀末～8世紀初頭創建の古代寺院があったと考えられます。瓦の特徴から北野廃寺（岡崎市）との深い関わりが想定されます。

また、東へ500mに位置する山裾からは焼き歪んだ多くの瓦が見つかり、鳥羽神宮寺へ瓦を供給していた窯跡（北迫瓦窯跡）と推察されています。

左上：素弁七弁蓮華文軒丸瓦　鳥羽神宮寺跡
右上：焼き歪みのある瓦（素弁七弁蓮華文軒丸瓦）　北迫瓦窯跡
下：軒平瓦四重弧文　鳥羽神宮寺跡

古代瓦出土の様子

寺部堂前遺跡〔寺部廃寺〕（寺部町）

寺部城跡の南側に位置し、確認調査で多くの古代瓦が出土しました。軒平瓦の瓦当の型押簾状文は西三河では珍しく、東三河や遠江地方の資料と特徴が類似し、海を介した古代寺院のつながりを知ることができます。

素弁六弁蓮華文軒丸瓦

型押簾状文軒平瓦

雨堀窯跡（米津町）

朝鮮川左岸の開析谷の斜面下から古代瓦が採集されています。この窯で焼かれた瓦が供給された寺院はわかっていません。

古代瓦採集地点（昭和40年代撮影）

中世の墓地

鎌倉時代になると金蓮寺や実相寺など現在にも残る寺院が建立されました。しかし、寺院に埋葬されたのは在地領主層に限られていました。ここでは市内から見つかった武士や庶民の「墓」を紹介します。

善光寺沢遺跡（吉良町岡山）

岡山丘陵の西側尾根上から南斜面にかけて、集石墓や土壙墓からなる中世墓群が見つかりました。集積墓には火葬骨を収めた蔵骨器が埋められ、地上には五輪塔が立てられていました。蔵骨器は常滑産の壺や甕が大半を占めていますが、瀬戸窯や渥美窯産の製品もあります。

当時、火葬を行ったのは仏教を信仰した武士や僧侶に限られるため、墓地の造営には当地を治めていた吉良氏とその武士団が関係していたと考えられています。

出土した蔵骨器

調査区の様子

蔵骨器検出状況

屋敷地内の埋葬土坑

中世の屋敷地の一角に掘られた長方形の土坑から人骨や陶磁器などが見つかることがあり、屋敷地に関係した人物の墓と考えられます。

左：志貴野遺跡
0.8m×1.5mの長方形の土坑で、人骨は残っていませんでしたが、山茶碗・小皿と和鏡1枚が副葬されていました。

右：若宮西遺跡
0.9m×1.5mの長方形の土坑で、人骨は膝を内側に折って、手はお腹あたりで重ねられていました。右肩付近には3つの山茶碗、左脇には鉄剣が副葬されていました。13世紀中葉の墓と推定されます。

横穴式石室の再利用

横穴式石室からは古墳の副葬品だけでなく、古代～中世の遺物が出土することがあります。これは石室が長期間にわたり利用され、後世の人々による追葬や先祖供養が執り行われていたことを示しています。

左：
宝冠塚古墳（刈宿町）出土の灰釉陶器
7世紀後半に築かれた円墳で、石室内部から10世紀後半の壺が出土しています。

右：
洲崎山5号墳（東幡豆町）出土の灰釉陶器
7世紀後半に築かれた円墳で、石室内部から8世紀末の長頸壺が出土しました。3号墳からも10～13世紀代の土器が出土しています。

古塚

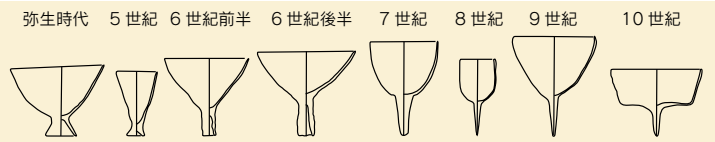
小間大塚（小間町）やゴリンサン塚（八ヶ尻町）など、古墳のように土を盛った中世の塚がいくつも残っています。

小間大塚（小間町）　昭和40年代撮影
碧海台地西端に土を盛って築かれた直径2.2m、高さ1.5mの小墳丘です。

塩づくり

古代以前には海水を土器に注ぎ、煮詰めて塩を生産していました。この塩づくり専用の土器のことを製塩土器と呼びます。

製塩土器は、海水を注ぐ杯部とそれを支える脚部からなります。杯部は砲弾形で熱を伝わりやすくするため、非常に薄くつくられています。そのため、塩をつくる過程で割れたり、塩を取り出す際に割られるため、多くは小片となって見つかります。脚部は当初は石敷炉などで使用するために、太く短いものでしたが、6世紀になると砂浜に直接突き刺して煎熬（せんごう）するために、細く尖った形状へと変化します。岡崎市や豊田市などの海から離れた内陸の遺跡から製塩土器が見つかることがあり、塩を製塩土器に入れたまま運ばれたと考えられています。



製塩土器変遷図

清水（しみず）遺跡（中畑町）

碧海台地端部とその下の砂堆に広がる遺跡です。三河地方では最も古い弥生時代末ごろの製塩土器が見つかっています。この製塩土器は大阪湾周辺の土器と類似し、海を介した交流が想定されますが、継続性はなく単発的なものでした。

掛梨（かけなし）遺跡（一色町佐久島）

佐久島大浦湾最奥部の砂浜上に位置する製塩遺跡です。発掘調査では、6～7世紀の大量の製塩土器のほか、炭化物層や石敷炉が見つかっています。また、佐久島では珍時（ちんまき）遺跡や東海道（ひがしげどう）遺跡などからも製塩土器が採集されています。

若宮西（わかみやにし）遺跡・巨海（こみ）城跡（巨海町）

竪穴建物跡内から6世紀後半を中心とした製塩土器が多くみつかり、土器製塩に携わった人々のムラの可能性があります。特に巨海城跡からはほぼ完形の製塩土器が竪穴建物跡の貯蔵穴から見つかっています。（上写真）

洲崎御堂前（すさきみどうまえ）遺跡（東幡豆町）

名古屋鉄道こどもの国駅の南100mに位置する製塩遺跡です。7～9世紀にかけての製塩土器が見つかっています。
写真は7世紀の製塩土器。

清水（しみず）遺跡（中畑町）

市内では9世紀になると製塩土器の出土遺跡・量は減少します。本遺跡は唯一10世紀まで土器製塩を行っていたことが確認されています。
写真は9～10世紀の製塩土器。

陶器生産

饗庭（あいば）窯跡（吉良町饗庭）

市内では唯一の中世の窯跡です。丘陵斜面を利用して、13世紀中ごろに操業していました。主に山茶碗が生産され、周辺地域へ供給されていたと考えられます。

饗庭1号窯跡遠景

窯跡出土品

『西尾市遺跡解説パンフレット 古代・中世の西尾』　編集発行：西尾市教育委員会文化財課　発行日：令和2年11月7日